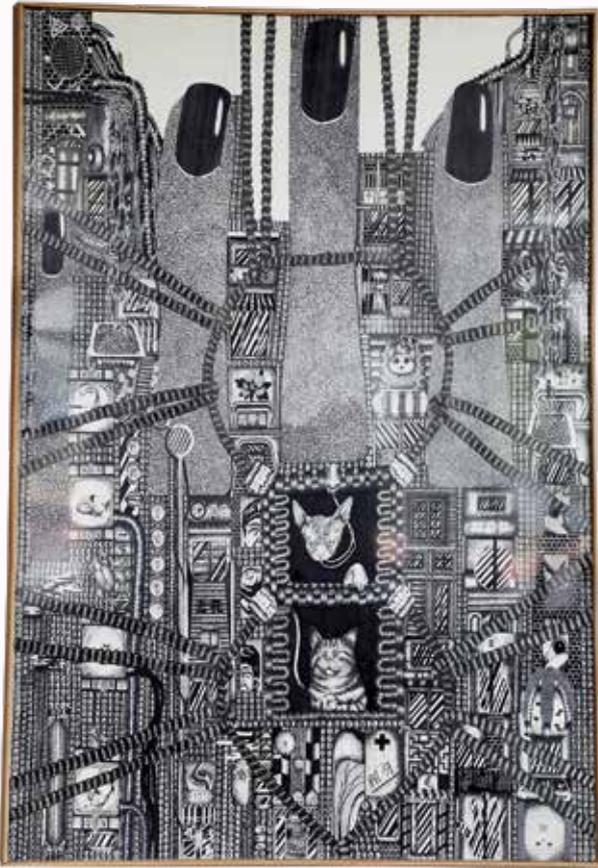


昨年8月に開催された第20回高校生国際美術展(世界美術文化振興協会主催)の美術部門(応募総数1274作品)で、最高賞となる内閣総理大臣賞を受賞した高橋宇音さん(17)＝杜陵高3年＝にお話を聞きました。



内閣総理大臣賞を受賞した高橋さんの作品
「拘束された女の子の手の甲で栄える九龍」

空想を絵で表現する楽しさ

高橋 宇音さん

絵を描き始めたのは中学生のときです。元々絵画を見るのが好きで、自分でも描いてみようと思ったのがきっかけです。祖父が私のために家にアトリエを作って、描いた絵を褒めてくれるのがうれしいことも、絵を描くことを続けられている理由の1つです。

高校生国際美術展で最高賞を受賞したこの作品には、私と同じくらいの年代が誰しも感じているであろう2つの世界を、1枚で表現したいという思いを込めました。まず学校や人間関係でがんじがらめになっている自分を、拘束されている「手」で表しました。その反面、手の甲にはさまざまな人たちが自由に街を形成している中国の九龍城砦※のような建物を描きました。高校生だからこそいろいろなことに挑戦でき、自由なんだということをこの部分で表現しています。小さい店をいっぱい描きまし

※香港・九龍地区に建っていた城砦とその跡地にできた巨大なスラム街の総称

たが、その1つ1つの店に合った物語を空想しながら、ペン先が0.1mmの油性ペンで描いていくのが楽しかったです。ただ、私は絵を描くとき、細かい部分でも納得がいかないと手が止まってしまうタイプ。それもあってか、この作品を仕上げるのに11カ月もかかりました。

今は今年度の同美術展に出展するための絵を描いています。描き始めて半年くらいになりますね。前回もそうでしたが、絵を描くことに集中させてくれる美術部の顧問の先生や両親、祖父母への感謝の気持ちをもって描き上げたいと思っています。自分の納得できる作品で応募するのが今の目標です。



写真 de もりおか

市内で開催されたイベントや出来事を紹介します。紙面で紹介しきれなかった写真は、市公式ホームページの取材日記に掲載しています。



取材日記

2月16日

入館 200万人を達成



もりおか歴史文化館(内丸)の入館者数が200万人を突破しました。平成23年7月に開館して9年目で達成。200万人目の入館者となった沼田光子さん(71)＝中央通三＝(写真左から2人目)を畑中美耶子館長らが祝いました。沼田さんは「散歩の途中で立ち寄るので、毎日のように利用している。これを機会に、友達などいろいろな人を誘って一緒に来たい。」と笑顔で話してくれました。

2月19日

市産材のベンチを寄贈



盛岡市と東京都文京区の友好都市提携1周年を記念して、同区へ盛岡市産のアカマツで制作したベンチを寄贈しました。ベンチの側面には、交流のきっかけとなった石川啄木の肖像画や短歌が焼き付けられています。成澤廣修文京区長は「区役所1階に置いて、区民に両都市のつながりをアピールしていきたい」と話しました。これからも、市の豊かな森林の恵みを通じて、友好を深めていきます。

2月23日

もりおか郷土芸能フェスティバル



市民文化ホール(盛岡駅西通二)で、同フェスティバルを開催しました。神楽や田植踊り、剣舞、さんさ踊りなど、市内の郷土芸能10団体と一戸町から1団体が出演。市や同町の無形民俗文化財に指定されている踊りを、一度に見ることができるとあって、会場には多くの人々が訪れていました。小・中学生など若い出演者も多く、力強くも繊細な舞に、観客から盛大な拍手が送られました。

3月11日

あのときを忘れないために



「祈りの灯火2020」を盛岡城跡公園(内丸)を中心に開催しました。今年は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、全国から集まった約1万個の灯笼の設置と点火のみに規模を縮小。あいにくの雨でしたが、多くのボランティアが参加し、それぞれが被災地への思いを込めて明かりを灯しました。雨に濡れ、なかなかつかないろうそくにも次第に火が灯り、会場は幻想的な光に包まれました。

もりけんに挑戦(9ページに掲載)の答え
③岩手県公会堂

広報もりおかへのご意見をお待ちしています
アンケート専用フォームから、特集や各記事への意見をお寄せください。あなたの意見が広報もりおかを育てます。



編集後記

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、催しなどの予定が日々変わり記事の掲載に悩みました。うがいや手洗いなどを忘れずに予防に努めましょう。(菅原)



地球環境に配慮し、ベジタブルインキを使用しています。